pal*system

Kinari

四季折々の食の物語を紡ぐ、暮らしの情報カタログ。

［きなり］

お届けカレンダー　2008年 8月3回

	月	火	水	木	金
注文用紙提出	8/11	12	13	14	15
商品のお届け	18	19	20	21	22

別チラシ『くらしと生協』など一部お届け日が異なる商品もあります。

8月1日～8月29日お届け分は9月8日の引き落としになります。

シリーズ 平和を考える 第三回

あなたは戦争を知っていますか？

「沖縄戦」を伝える小さな美術館からの大きなメッセージ

太平洋戦争末期、日本で唯一、地上戦の舞台となった沖縄。「集団自決」への日本軍の「関与」をめぐる教科書記述について、文科省と沖縄県民との間で大論争が起こったことは記憶に新しい。沖縄戦が私たちに残したものは何か？米軍普天間基地に隣接する宜野湾市の海沿い。『沖縄戦の図』（丸木位里・俊共同制作）を常設展示する佐喜眞美術館館長・佐喜眞道夫さんに、次世代に伝えたい「平和への思い」をうかがった。

「初めて踏んだ沖縄の地は、砂ぼこりで殺伐としていた」

家族の疎開先である熊本で生まれ育った佐喜眞さんが初めて沖縄の地を踏んだのは1954年、小学校2年生のときだった。

「とても美しい場所だと聞かされて育ったのに、初めて見る沖縄の地は、地上のすべてが吹き飛び、真っ白い砂ぼこりの舞う緑も陰もない世界でした」

夢に描いていたのとあまりに落差のある「ふるさと」の姿がやりきれなくて、「ここを木でいっぱいにしたい」と幼い心が使命感でいっぱいになったのを覚えている。長じて再び沖縄を離れていた佐喜眞さんは、「原爆の図」で知られる丸木夫妻が沖縄戦を題材とする作品に取り組んでいることを知る。

「からだが震えました。私自身、沖縄戦が内地の戦いとどう違うのか、周囲に伝えようにもうまく整理できないもどかしさを抱いていたときだったのです」

「『沖縄の図』は沖縄に置きたい」との夫妻の願いに、無謀な計画とは承知のうえで美術館づくりに奔走。米軍に売却した先祖の土地の一部を取り戻し、94年にあふれる緑と陰に囲まれた美術館をオープンさせた。

壮絶な記憶の継承が、託された人間の底力になる。

縦4m、横8・5mの巨大な画面いっぱいに、座間味島、渡嘉敷島での集団自決、激戦地の本島南部、久米島での住民虐殺などが描かれる『沖縄戦の図』。多くの生存者に取材を重ね、小物ひとつまでリアルに再現したという絵は見る者を圧倒する。

「多くの日本人が『空襲』という戦争しか知らないなか、丸木さんがこの絵に込めたのはより凄惨な地上戦の実態でした。戦争を起こすのはまぎれもなく人間であり、戦争という場において人間がいかに破壊されるか、残忍になれるかを人々の記憶に刻みつけ、人間の愚かさを自覚し、二度と再び戦争を起こしてはならない、と肝に銘じてほしかったのです」

修学旅行のグループが見学に訪れた際、ひとりの男子学生に、「このままの世の中なら、君も10年後はこの絵のなかにいることになるよ」と話したことがある。最初はむしろ不真腐れ気味だった学生が、最後に静かに一礼をして美術館を去った姿に、佐喜眞さんは希望を見た。

「厳しい体験の記憶をきちんと継承していくことが、託された人間の底力になります。沖縄にはその歴史がある。とくに若い人にはここに来て、戦争の現実を肌で感じてほしい」

佐喜眞道夫さん　佐喜眞美術館

佐喜眞美術館
http://sakima.art.museum/

沖縄県宜野湾市に所在する「反戦」を趣旨の一部とする私立の美術館。丸木位里・俊夫妻による『沖縄戦の図』をはじめ、館長・佐喜眞氏の個人コレクションであるケーテ・コルビッツや上野誠、ジョルジュ・ルオーの常設展示のほか、企画展の開催もある。

［住所］沖縄県宜野湾市上原358
［TEL］098-893-5737
［開館時間］9：30～17：00
［休館日］火曜日、年末年始

パルシステム今週の一品

いよいよ新米の季節です。まずは土佐から!

5・12ページ
101 土佐こしひかり（無洗米）

食卓に新しい季節を呼び込みましょう。

同時にお届けしています。

「乾物屋さん」

「産直通信　グリーンプラザパル」

●『Kinari』をはじめ、いっしょにお届けしているチラシ類も含めたすべての紙類を回収しています。保冷箱に入れて、お戻しください。
★ギフトおよびスクエア等、一部のカタログは利用ポイントの対象外となります。お問い合わせは、各センターへ。